

## [報告 3]

# JA 運動の新たな展開と女性の役割

## 女性組織の活性化と運営参画

矢島牧子 (JA 松本ハイランド理事)

私自身は、女性部からの推薦により、女性理事を 2 期務めている。JA 松本ハイランドは、組合員数 25,504 人のうち、女性が 5,004 人を占めている。集落組織、女性、次世代を核に JA 運動の新たな展開を図っている。

### JA の基本は組合員の組織活動

JA 松本ハイランドでは、組合員主体の活動を進めているが、その核となるのが農家組合組織である。農家組合長は、農家組合の総代、くらしの専門委員、信用専門員、班長を通じ組合員の意見を集約する。これを支所を通じて本所の会議で集約し、JA 全体の事業・組織活動に反映させる仕組みとなっている。組合員と役員、職員が三位一体となって各々の役割を果たすことを目標としている。

第 4 期中期計画「経営基盤強化基本構想」(平成 16 年～18 年)では、「協同活動への参加促進と組織の活性化に取り組む」ことを主要方針に女性や中核的世代の参画、地域に根ざした活動、農家組合組織の全地区設置、組合員の声を反映する事業運営を実践している。組織活動の活性化のため、平成 17 年度からモデル農家組合を選定し 10 万円を助成している。ただしその事業実施は農家組合長を中心とした農家組合で企画し、JA 職員はサポート役に徹している。

このような中で組合員加入促進運動として、一戸複数組合員化と女性組合員化を推進し、3 年間で 2600 人の組合員が増えた。女性の組合員の比率(正組合員)は、平成 15 年度の 16.5%から平成 18 年度には 22.4%に上昇している。

### 次世代との関係づくり

後継者を育成すべく「みどりの風プロジェクト」を実施している。これは未婚の JA 青年部員と全国から募集した女性とのふれあい交流事業である。テレビでも紹介され全国から大きな反響があった。



女性の地域リーダー養成のためには、「若妻大学」を昭和 47 年から開講している。40 歳までの女性を対象とした、1 期 3 年間 150 単位の講座である。卒業生は 1,000 名にのぼる。地域リーダーを養成しているものの、該当者の減少や卒業と同時に女性部をやめてしまう、卒業生が若く卒業後すぐに活躍できないなどの課題が生じている。

### 女性の JA 運動・事業への参画と女性理事の誕生

JA 松本ハイランドでは、生活活動、福祉活動、営農活動、JA 参画など多方面において女性部と JA とが一緒になって取り組んできた。この過程で女性の参画がすすみ、平成 5 年に初めて女性参与が生まれた。その後平成 14 年に女性理事 2 名が誕生し、平成 17 年に 5 名に増加した。女性総代は平成 17 年に 96 名(全体の 10.7%)に増加している。

### JA 運動における女性の役割と課題

女性組織のネットワーク化を推進している。平成 20 年度には、「女性参画センター」の設置を予定している。

JA の農業生産では、女性が 6 割以上を占めているのに対し、JA の事業・運営に参加しているのはほんの一握りにすぎない。さらに女性の参画が進めば、JA としても新しい方向が見出せるのではないか。一方で、女性の側ももっと勉強しなければならないということを実感している。